

令和7年度 福生市中学校音楽鑑賞教室

プログラム（公演時間 70 分）

演奏：パシフィックフィルハーモニア東京（50名編成）

指揮：田久保裕一

1. グリンカ／歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
2. ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」より第1楽章
3. オーケストラの仕組みと楽器解説（各楽器の独奏とアンサンブル）
  - 弦楽器 ヴィヴァルディ／「四季」より「春」第1楽章
  - ハープ 小品
  - 木管楽器 チャイコフスキー／バレエ「白鳥の湖」より四羽の白鳥の踊り
  - 金管楽器 デュカス／舞踊詩「ラ・ペリ」よりファンファーレ
  - 打楽器 ドラムマーチ
4. シュトラウスⅡ／トリッチ・トラッチポルカ
5. 外山雄三／「管弦楽のためのラブソディ」より信濃追分～八木節
6. 指揮者体験コーナー（生徒1名参加）
  - 使用曲：オッフェンバック／喜歌劇「天国と地獄」序曲
7. スメタナ／交響詩「我が祖国」よりブルタバ

中学校の部

■歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲(グリムカ作曲)

グリムカはロシア音楽の父祖として高く評価されている作曲家です。年代的にはシューベルトとメンデルスゾーンの間くらいに当たる、いわばドイツでの前期ロマン派の時代に相当します。このオペラはロシア色の濃い作品で、序曲はロシアの楽しい民謡の雰囲気を感じた快活なものです。

■交響曲第5番「運命」より第1楽章(ベートーヴェン作曲)

ベートーヴェンの最円熟期に作曲された画期的な傑作です(1808年作曲、同年12月22日初演)。純粹な古典形式をふまえながら自由に個性の強い魂を語り、大胆に悲壮と闘争と情熱を盛り上げた点で第3番の「英雄」をしのぐ驚異的な作品と言えます。特に第1楽章冒頭の「ジャジャジャジャー」という旋律はあまりにも有名で、「運命はこのようにして戸をたたく」とベートーヴェン自身が解説しています。

■トリツチ・トラッチポルカ(シュトラウスⅡ作曲)

ヨハン・シュトラウス2世が作曲した160曲以上のポルカの中でも特に親しまれている曲です。「トリツチ・トラッチ」は日本語に訳すと“ぺちやくちゃ”というような意味の言葉で、ご婦人方のにぎやかなおしゃべりをユーモラスに描いています。

■「管弦楽のためのラプソディ」より信濃追分～八木節(外山雄三作曲)

「管弦楽のためのラプソディ」は、外山自身も指揮をしているNHK交響楽団が1960年に行った海外演奏旅行の際に作曲されました。日本各地の民謡が素材となっており、長胴太鼓や締太鼓、チャンチキといった和楽器も使用されています。今回は、フルートの朗々としたソロで始まる信濃追分からお祭り騒ぎの八木節へと続く後半部分をお聴きいただきます。

■交響詩「我が祖国」よりブルタバ(モルダウ)(スメタナ作曲)

チェコの国民楽派の祖といわれるスメタナの代表作です。1874年～1879年にかけて、スメタナは、途中まったく耳が聞こえなくなるという障害も乗り越えて、祖国の歴史と自然を歌った全6曲からなる交響詩「我が祖国」を響き上げました。そのなかで最も有名な曲が、プラハ市内を流れてゆくブルタバ川の様子を描写した「ブルタバ」です。小さな源流が次第に川幅を広げ、森を流れ、時には激しく流れながら、祖国の風景を感動的に表現しています。

※この曲目解説は、いろいろな資料を参考にして弊社が独自に作成したもので、著作権も発生しませんので、先生方が自由に加筆や修正をされても全く問題ございません。

株式会社 重本音楽事務所